



取扱説明書

自走セット動噴

GSLF204-M



出荷時は エンジンとポンプにオイルは入っていません。
使用始める前に必ずオイルを入れてください。

ご使用になる前に必ずお読みください。
いつまでも大切に保管してください。

は じ め に

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱方法、簡単な点検方法について説明してあります。

ご使用の前によくお読みいただいて十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮できるように、この冊子をご活用ください。

また、お読みになったあと必ず大切に保存し、分からないことがあった時には取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

また、安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した「安全作業説明書」を別冊にして添付しておりますので、合わせてご活用ください。

本製品についてお気付の点がございましたら、最寄の取扱店にお問い合わせください。

■注意事項について

●本書に記載した注意事項や機械に貼られた ▲ の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要項目です。よく読んで必ず守ってください。

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

▲ **危険**…もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。

▲ **警告**…その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。

▲ **注意**…その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

注意…その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性があるもの。

■使用範囲について

●本製品は〔農業における病害虫に対する農薬散布、散水〕、〔防疫用消毒液、殺虫剤の散布〕、〔物品の洗浄〕を目的とした製品です。この使用範囲を逸脱しての使用が原因での事故、許可なく改造、分解を行い、それに伴って生じた事故に関しては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●強酸性・強アルカリ性の薬品や、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどの引火性の高い薬剤は使用しないでください。やけどや火災の恐れがあります。

■機械を他人に貸すとき

●取扱方法をよく説明します。機械に貼ってある ▲ (安全注意マーク) 印の付いている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。親切心が仇にならないように、機械と一緒に取扱説明書・安全作業説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。とくに禁止事項については念を入れて説明してください。納入指導を受けてない家族にも同じように、説明してあげてください。

■国際単位について

●本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値をよく読んでご理解の上ご使用ください。

換 算 表

量	新計量法対応表示	換 算	従来の表示	備考
面 積	[m ²] (平方メートル)	10000[m ²]=1[ha]=100[a] =10 反歩=3000 坪	[a] (アール)、[ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※①
回 転 速 度	[rpm] (回毎分) [min ⁻¹] (毎分)	1[min ⁻¹]=1[rpm]	[rpm]	※②
力	[N] (ニュートン)	9.8[N]=1[kg f]	[kg f] (重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m] (ニュートンメートル)	9.8[N・m]=1[kg f・m]	[kg f・m]	
圧 力	[Pa] (パスカル) [N・m ²] (ニュートン毎平方メートル)	0.98[MPa]=10[kg f/cm ²] 9.8[Pa]=1[mmH ₂ O]	[kg f/cm ²] [mmH ₂ O]	
工 率 ・ 動 力	[W] (ワット)	735.5[W]=1[PS] 9.8[W]=1[kg f・m/s]	[PS] [kg f・m/s]	

※注意事項

①土地面積については、[a]、[ha]を使用することがあります。

②単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

目 次

1	▲ 安全に作業するために	2
2	各部のなまえとはたらき	5
3	▲ 警告ラベルの取扱い	9
4	主 要 諸 元	10
5	運 転 前 の 準 備	11
6	始 業 点 検	12
7	給 水	12
8	エンジンの始動・停止のしかた	13
9	走行運転のしかた	14
10	トラック荷台への搭載および固定方法	15
11	噴 霧 点 検	16
12	薬 剤 調 合	16
13	散 布 作 業	17
14	散 布 終 了	18
15	散布作業終了後	18
16	保 守 点 検	19
17	給 油 一 覧 表	20
18	長期保管の方法	20
19	故 障 診 断	21
20	消耗品一覧	23
21	サービスと保証について	24

1 ▲安全に作業するために

(1) はじめに

ご使用の前に必ず、この取扱説明書と安全作業説明書、及び薬剤の取扱説明書をよく読んで正しい安全作業を行ってください。

安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で、**▲危険**、**▲警告**、**▲注意**、**注意**として、その都度取り上げています。

▲警告

強酸性・強アルカリ性の薬品や、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどの引火性の高い薬剤は使用しないでください。やけどや火災の恐れがあります。

(2) こんな人は散布作業をしてはいけません

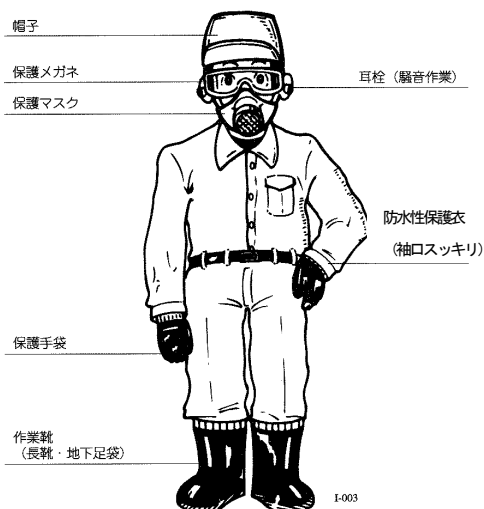
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気を帯びた人
- 妊娠している人
- 負傷中の人・薬物による影響を受けやすい人
- 16歳未満の人
- 未熟練者



I-002

(3) 作業に適した服装をします

適正な保護具を使用します



I-003

▲警告

保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用してください。

(4) 運 転 前 の 注 意

- 安全作業説明書、本機の取扱説明書及びエンジンの取扱説明書をよく読んで機械の操作に慣れて正しい安全作業を行ってください。
- 使用する薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み正しい安全作業をしてください。
- 無用な人は散布作業の現場に近づけないでください。事故を起こす原因になります。
- エンジンを始動する時は駐車ブレーキがかかっている事を確認してから始動してください。(P 8)
- 散布計画を立て、薬剤は余らないように調合してください。
- 作業中の危険、トラブル防止の為に必ず始業点検を行ってください。(始業点検:P. 12)
- ガソリンは火気により爆発の危険があります。火気厳禁で取り扱ってください。
- 燃料の補給は、屋内や換気の悪いところではしないでください。
- 燃料の補給はエンジンを停止し、冷えてから行ってください。燃料、オイルがこぼれた場合はきれいに拭き取ってください。火災の原因になります。
- 燃料の入れすぎは危険です。燃料タンクストレナレベルゲージ(赤色リング)以下にしてください。(P 11)
- 運転中に余水ホースが暴れて薬剤タンクから飛び出さないように、バンドで吸水ホースに固定します。
- 点検、調整、清掃時には必ずエンジンを停止してから行ってください。
- カバーを外して運転しないでください。
- 密閉された所や通気の悪い場所では運転しないでください。ガス中毒になる恐れがあります。

⚠ 警告

マフラー及び排気口付近に障害物や燃えやすいものがあると、発火するおそれがあります。
駐車の際には十分注意してください。

(5) トラックへの積みかた

⚠ 注意

落下事故には十分注意してください。

- 本機をトラックへ積み降ろしする際は、平坦な場所を選び、スベリ止めと転落防止ツバの付いたブリッジ2本を確実に荷台に固定してから行ってください。

使用トラック	軽4輪	1 t
ブリッジの長さ	1.8 m以上	2.4 m以上

- トラックに積み込む際には、エンジン回転を低速にし、ゆっくり積み込みを行ってください。



(図-1)

(6) トラック荷台への搭載及び固定方法

- 積み込みが終わりましたら〔駐車ブレーキ〕を確実にかけ、エンジンを停止して、直ちにロープで固定してください。
- ロープは必要以上に強くかけないでください。また、バランスよく引張ってください。故障の原因になります。

(7) トラックからの降ろしかた

⚠ 警告

後進で降ろすことはしないでください。操作を誤った時に本機が運転者の方に、速い速度で走ってくる可能性があります。また、後向きで降りる時、ブリッジから足を滑らし、転倒する可能性があります。危険です。
本機は前進で進み、前進で降ろしてください。

⚠ 注意

落下事故には十分注意してください。

注意

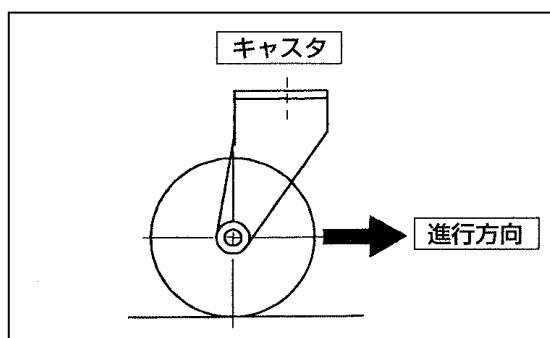
はしご状のブリッジを使用する場合、キャストが横向きになりブリッジのクロスメンバーのすきまに落ち込まないように注意してください。機械が破損するばかりでなく、思わぬ方向に走り出し危険です。



(図-2)

- トラックから降ろす時は低速で、ブレーキをかけながら、ゆっくり降ろしてください。
- トラックから降ろす時はキャストを進行方向に向けてから、ゆっくり降ろしてください。

キャストの向き



(図-3)

(8) エンジンの始動

- 密閉した、また通気の悪い場所では運転しないでください。ガス中毒になる恐れがあります。

(9) 運転中の注意

- ホースを巻取る時は、安全を確認してから巻取操作をしてください。
- ポンプクラッチ、スイッチ、コック(弁)等をむやみに操作しないでください。
- 作業員以外は、散布作業の現場に近づけないでください。薬液を浴びる危険があります。
- ホースガイド、ホース巻ドラム、カバー内部には回転物があります。手や物を入れたり近づけたりしないでください。

- エンジン運転中及び、停止直後はマフラやマフラカバー及びエンジン本体は熱くなっていますから、手、肌、衣服などが触れないようにしてください。やけどの原因になります。
- ローラの近くでは、ホースを持たないでください。ローラにはさまれる危険があります。
- ホースが残り少なくなったらエンジンを低速にし、ゆっくり巻取ってください。
- 設置した際に、排気方向は塞がないでください。排気ガスや排気熱により一酸化炭素中毒や火災の原因になります。
- トラックのあおりがマフラ排気口より高い場合にはあおりを倒してください。

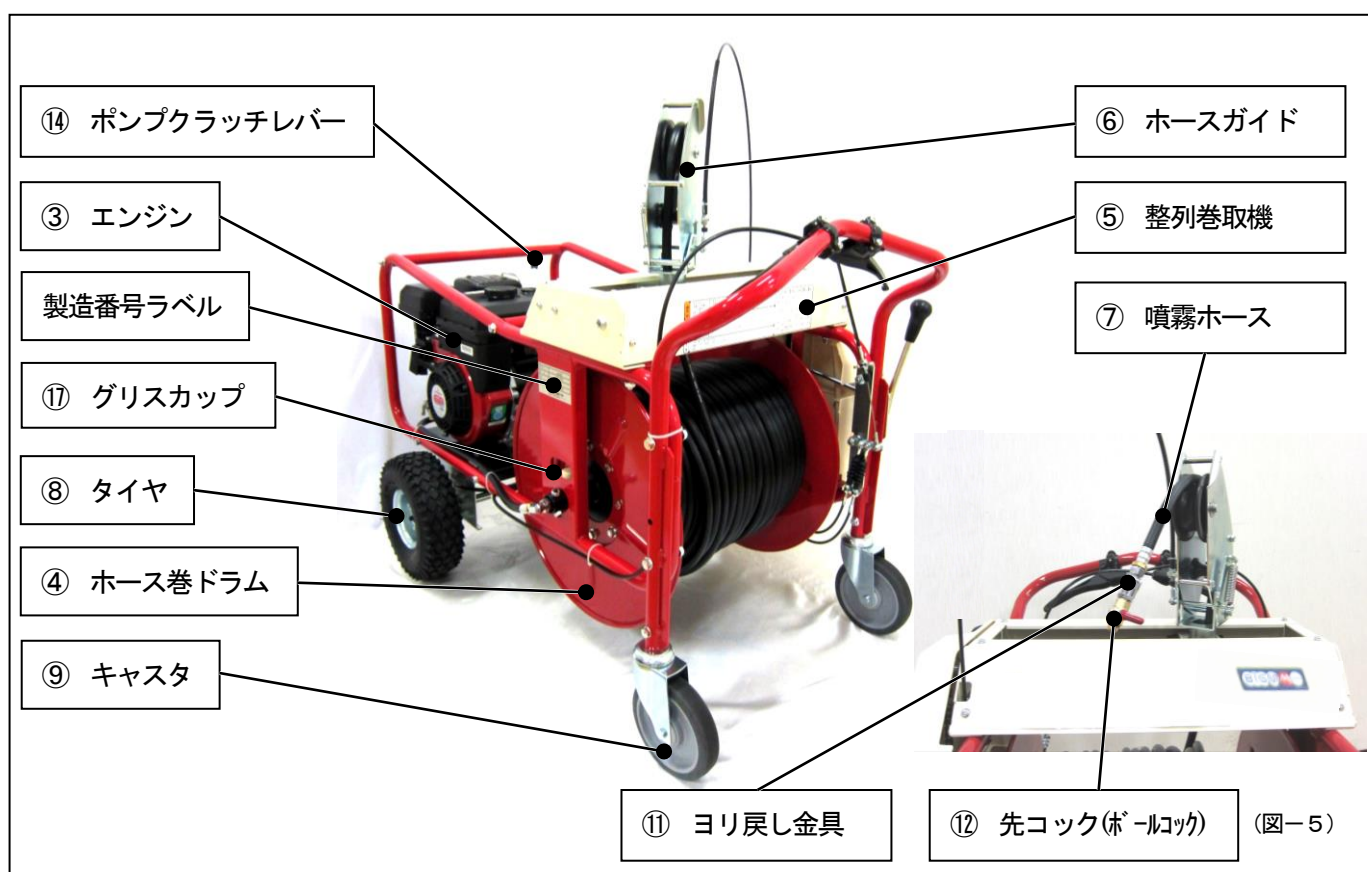
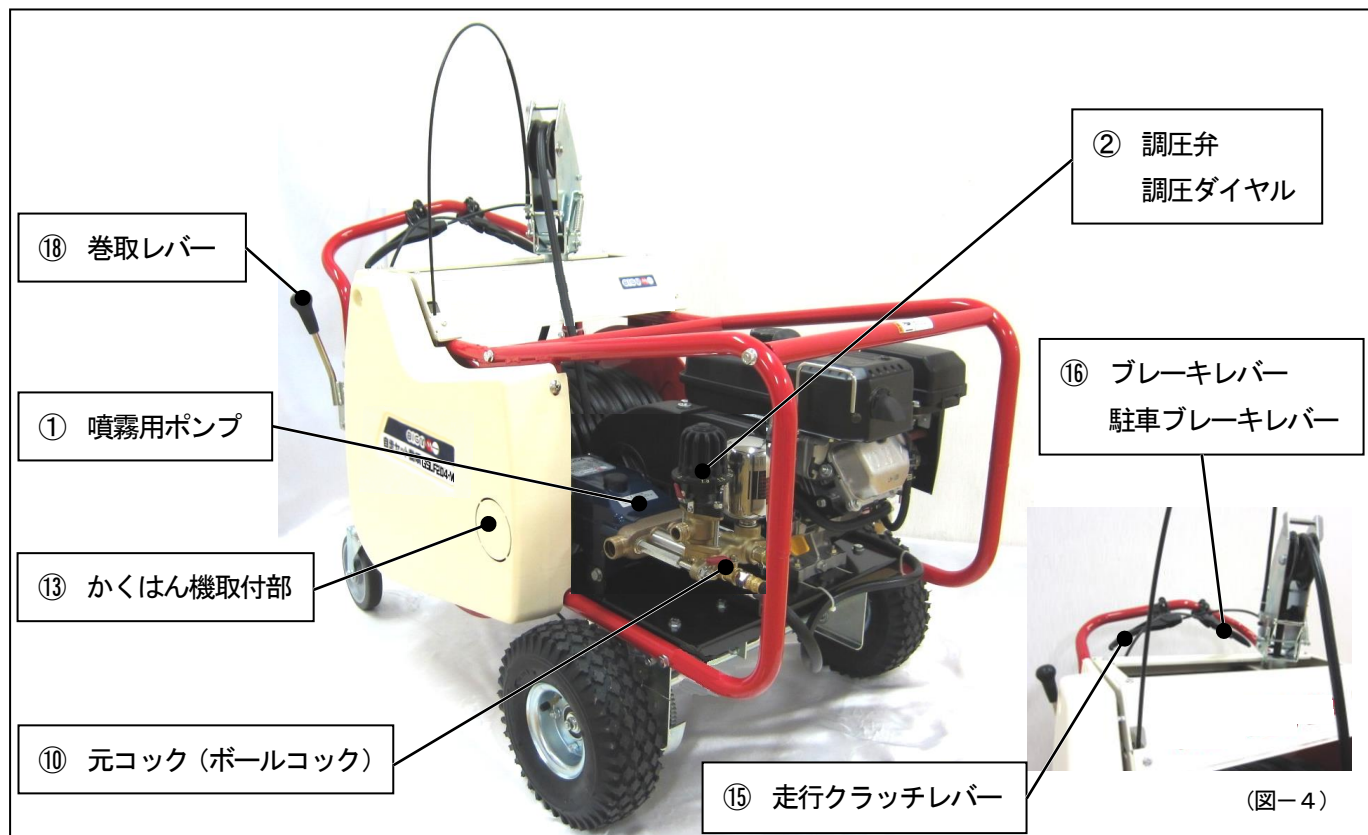
(10) 使用後の注意

- 使用後の機体、散布装置は十分に洗浄してください。

2 各部のなまえとはたらき

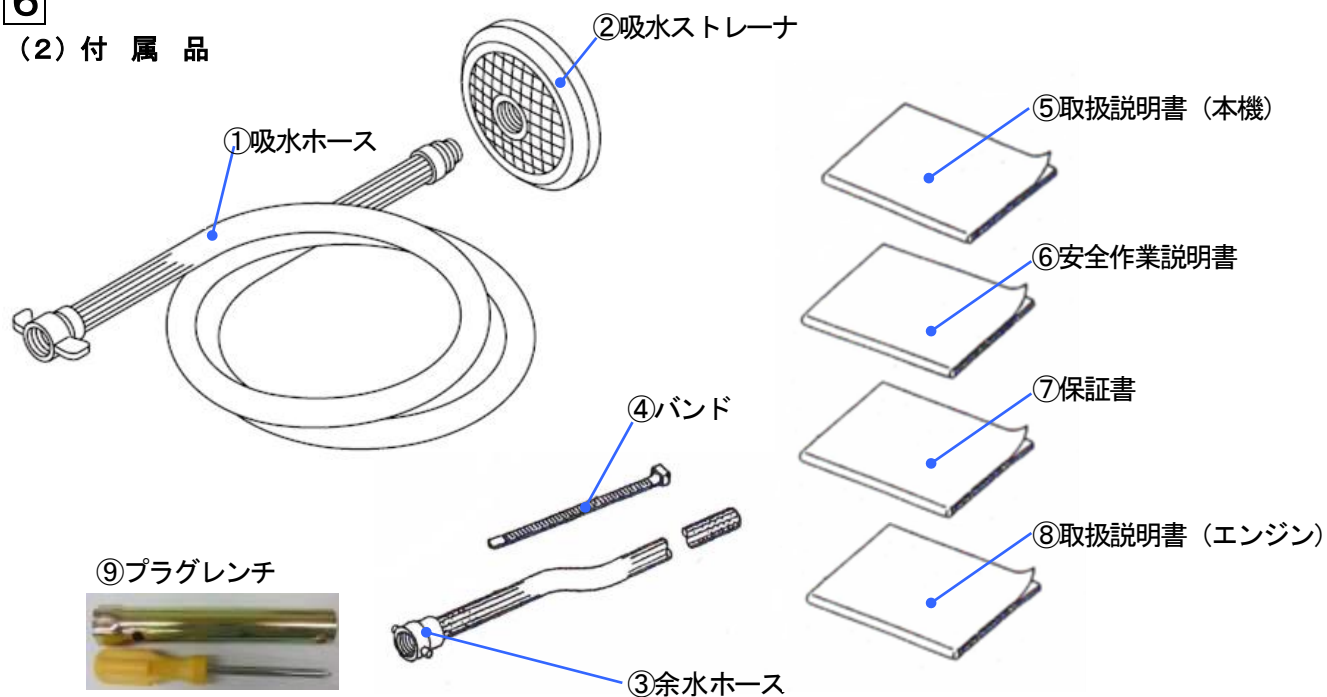
●機械本体及び付属品を点検して損傷、欠品等がありましたら、すぐに本機をご購入された販売店に連絡してください。付属品の確認は、P. 6を参照願います。

(1) 各部の名まえ



6

(2) 付 属 品



(図－6)

No.	部品番号	名 称	サイズ及び備考	数量
①	8 1 1 3 5 6	吸水ホース	φ 1 9 × 3 m	1
②	1 2 2 0 1 7	吸水ストレーナ		1
③	8 1 1 3 5 7	余水ホース	φ 1 3 × 3 m	1
④	1 0 7 1 0 7	バンド	余水ホース固定用	1
⑤	8 3 4 0 4 2	取扱説明書	本機 (GSLF204-M)	1
⑥	5 3 3 1 2 6	安全作業説明書	大型セット動噴	1
⑦	—	保証書		1
⑧	—	取扱説明書	エンジン (三菱用)	1
⑨	—	プラグレンチ	エンジン (三菱用)	1

(3) オプション (別売)

ノズル・かくはん機・薬剤タンク等、希望される物がありましたら、最寄の取扱店にお問い合わせください。

(4) 各部のはたらき

① 噴霧用ポンプ

吸水ホースより薬液を吸い込み、加圧して噴霧ホース、ノズルへ送ります。圧力は②調圧弁で調整します。ノズルより吐き出されない液は、余水ホースより薬剤タンクへ戻されます。

② 調圧弁/調圧ダイヤル

①噴霧用ポンプで加圧される圧力の調整をします。調整は調圧ダイヤルを回して行います。ダイヤルの数値は圧力（単位MPa）の目安です。



調圧弁/調圧ダイヤル

(図-7)

③ エンジン

走行、噴霧用ポンプ、ホース巻ドラムを回す動力源です。詳しくはエンジンの取扱説明書を参照ください。

④ ホース巻ドラム

噴霧ホースをエンジンの動力で巻取ります。

⚠ 注意

運転中は、はさまれる危険があります。
手や物を近づけないでください。

⑤ 整列巻取機

ホース巻ドラムにホースを整然と巻取ります。

⑥ ホースガイド

ホースを伸ばす方向にガイドローラを向け、ホースを案内する役目とホースの引出し方向を調整することができます。

⚠ 注意

運転中は、はさまれる危険があります。
手や物を近づけないでください。

注意

道路よりもほ場がかなり高い位置で使用する、ホース巻ドラムのブレーキに負担がかかり、寿命が短くなります。このような場所では機体なるべく高い位置に設置して使用してください。

⑦ 噴霧ホース

噴霧用ポンプで加圧された薬液をノズルに送ります。

⚠ 警告

噴霧ホースを腰ベルト等で身体に固定しないでください。万一、巻取機が停止しないことがあると大変危険です。

⑧ タイヤ

駆動輪です。

⑨ キャスタ

後輪は自在キャスタになっていますので、方向転換がスムーズに行えます。ただし、前後進の変更直後はキャスタが180度向きを変えますので、ブリッジに乗る前にキャスタの向きを進行方向に向けてください。

(P 4 図-3参照)

⚠ 注意

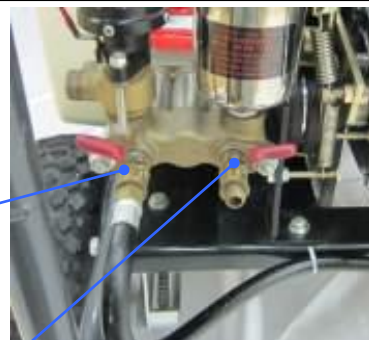
ブリッジに乗る前にキャスタの向きを進行方向に向けてください。

⑩ 元コック(ボールコック)

噴霧用ポンプで加圧された薬液の取り出し口です。

⚠ 注意

元コックを開ける時は安全を確認してから行ってください。



元コック

元コック(予備)

(図-8)

⑪ ヨリ戻し金具

ホースのヨレを戻す金具です。

⑫ 先コック(ボールコック)

散布作業中にノズルの噴霧、停止をするコックです。

⑬ かくはん機（オプション（別売））取付部

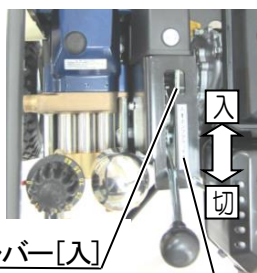
フレキシブルかくはん機を取り付ける場所です。かくはん機を取り付ける際は、カバーの切り欠き部を切り取って下さい。



カバー切り欠き部 (図-9)

⑭ ポンプクラッチレバー

噴霧用ポンプのクラッチレバーです。「入」にするとポンプが回り、「切」にすると止まります。



ポンプクラッチレバー「入」

ポンプクラッチレバー「切」

⑮ 走行クラッチレバー

エンジン回転中に走行クラッチレバーを握ると前進します。

(図-10)

⚠ 警告

安全を確認してから走行クラッチレバーを操作してください。

⑯ ブレーキレバー・駐車ブレーキレバー

⚠ 注意

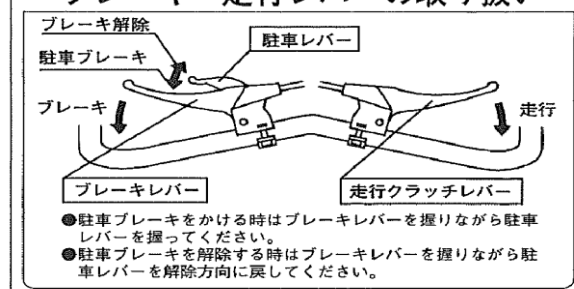
ブレーキライニングとドラムの摺動面には油分を付着させないでください。ブレーキがきかなくなり、大変危険です。

機体の減速、停止に使用します。機体の減速、停止を行う時は、走行クラッチレバーを放し、ブレーキレバーをいっぱい握ってください。

駐車ブレーキをかける時は、片手でブレーキレバーを握りながら、もう片方の手で駐車レバーを握ってください。

駐車ブレーキを解除する時には、ブレーキレバーを握りながら駐車レバーを解除方向に戻してください。

ブレーキ・走行レバーの取り扱い



(図-11)

グリスカップ (図-12)

⑰ グリスカップ

20時間使用する毎にホース巻ドラムの軸受にグリスを注入します。

キャップを時計方向に回して、軸の周りからグリスがはみ出るまで給油します。グリスがなくなったらキャップを外して万能グリスを補充します。



⑱ 巻取レバー

噴霧用ポンプ回転中に巻取レバーを「ON」側に倒すとホースの巻取ができます。

手を離すとレバーが「OFF」に戻り巻取を停止します。



(図-13)

⚠ 注意

- ホースを巻取る時は安全を確認してから行ってください。
- ローラの近くではホースを持たないでください。ローラにはさまれる危険があります。
- ホース巻取はホースを軽く引き、ホースガイドを傾けてブレーキを解除しながら巻取します。ブレーキを解除しないで巻取を行うと機械の寿命を縮めます。

注意

- ホース巻取り中に異常を感じたらすぐに巻取をやめ、原因を取り除いてください。
- ホースを巻取る時は、ホースに圧力をかけて巻取ります。圧力を抜いて巻取ると、ホースがつぶれて薬液の流れが悪くなるばかりでなく、ホースの寿命も短くなります。
- ホースをつないで使用すると機械を壊す原因となります。
- ホースが残り少なくなったら、エンジンを低速にし、ゆっくり巻いてください。

吸水ホース

薬剤タンクから噴霧用ポンプが薬液を吸入するホースです。付属品に入っている2本のホースのうち、太いホースが吸水ホースです。

吸水ストレーナ

薬液の不純物、固形物を濾しとります。

余水ホース

ノズルから吐き出されない薬液をタンクに戻すホースです。付属品に入っている2本のホースのうち、細いホースが余水ホースです。

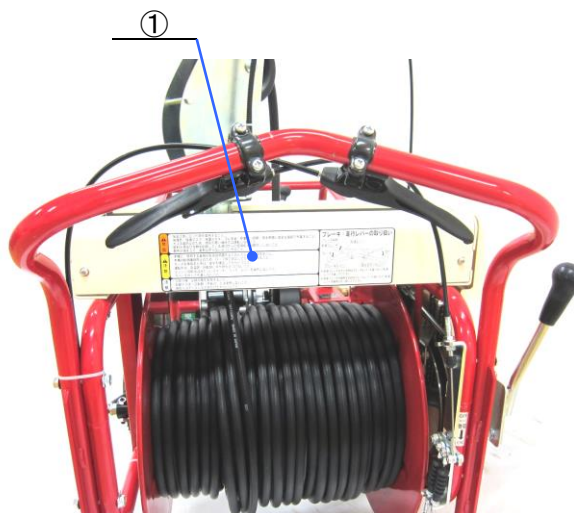
3 警告ラベルの取扱い

注意

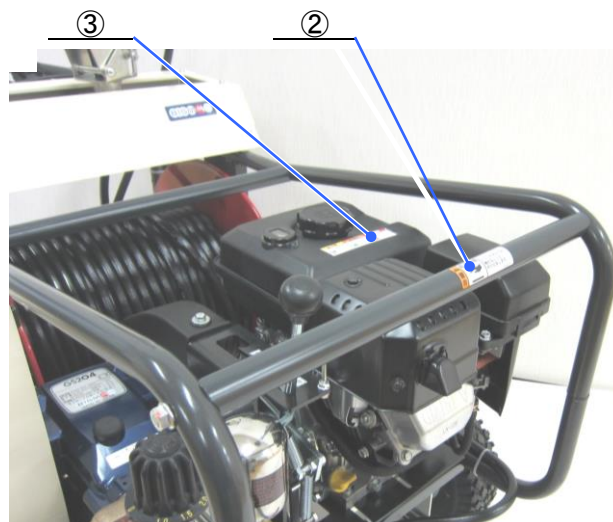
- いつも汚れや泥をふき取り、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したら、最寄の取扱店に注文し、新しい物と交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しいラベルを取り外した部品と同じ場所に貼ってください。

※本機には次の安全ラベルが貼ってあります。

よくお読みになって理解した上で作業してください。



(図-14)



(図-15)

① 295130 警告ラベル

警告 ・服装は体に合った物を着用すること。 ・保護衣・保護マスク・保護メガネ・ゴム手袋・作業靴（長靴）等を用意し安全な服装で作業すること。 ・ガス中毒防止のため、換気の悪い場所では運転しないこと。 ・飲料水源及び生物を飼育している湖沼からの直接給水は絶対にしないこと。 ・散布計画を立て、薬剤は余らないようにすること。	注意 ・本機と、使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで正しく使用すること。 ・本機の転倒事故防止のため、ロープ等で固定してから使用すること。 ・ホースを巻取るときは、安全を確認してから行うこと。 ・運転中は、高温部・回転部に手や物を近づけないこと。 ・エンジン回転中はみだりにスイッチ・コック・レバーを操作しないこと。 ・カバーを外して作業しないこと。	注意 ・日常点検・定期点検を実施すること。 ・振動が大きい回転数（共振点）では使用しないこと。 ・巻取りはホースに圧力をかけてから行うこと。	ブレーキ・走行レバーの取り扱い ・駐車ブレーキをかける時はブレーキレバーを握りながら駐車レバーを握ってください。 ・駐車ブレーキを解除する時はブレーキレバーを握りながら駐車レバーを解除方向に戻してください。 P/N. 295130
---	--	--	---

② 682751 警告ラベル

警告	高温注意	マフラーやその付近に 触れないこと。 やけどをします。 P/N. 682751
------------------	--------------------	---

③ 403136 警告ラベル

注意	警告	危険	無鉛ガソリン
マフラー高温注意	排ガスに注意	火気厳禁	
さわるとやけどを するおそれがあり ます。	室内や換気の悪い 所での運転は人体 に有害で危険です。	・給油時エンジン停止 ・火災の危険あり。 ・給油口に火を近づけないこと。	

4 主 要 諸 元

名 称	G S L F 2 0 4 - M
寸法（長さ×幅×高さ）（mm）	1 1 2 0 X 7 0 0 X 9 5 0
乾燥質量（kg）	9 4 . 5
噴霧用ポンプ名称	G S 2 0 4（CA）
回転速度（min）	7 5 0
最大吸水量（L/min）	2 1 . 4
最高圧力（MPa）[kgf/cm ²]	4 . 0 [4 0]
エンジン	三菱GB131LN
形 式	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン
定格出力 kW(PS)/min ⁻¹	2 . 3（3 . 1）/1 8 0 0
最大出力 kW(PS)	3 . 0（4 . 2）
始動方式	リコイルスタータ
ホース巻取機	自動整列巻取
噴霧ホース（内径×長さ）	Φ 8 . 5 mm×1 0 0 m
巻取クラッチ形式	ベルトテンションクラッチ
巻取機ブレーキ形式	摩擦式
巻取部伝動方式	Vベルト伝動・ローラチェーン伝動
走行部駆動方式	前2輪駆動
走行速度（m/sec）	0 . 3 4 ~ 0 . 8 7
走行クラッチ形式	ベルトテンションクラッチ
走行ブレーキ形式	内拡式ドラムブレーキ
車 輪（前）	4 . 1 0 / 3 . 5 0 - 4 空気入りゴムタイヤ（空気圧3 0 0 k P a）
車 輪（後）	φ 1 5 1 ソリッド自在キャスタ

◎ エンジンについてはエンジンの取扱説明書をご覧ください。

◎ 噴霧ホースについては、安全作業説明書をご覧ください。

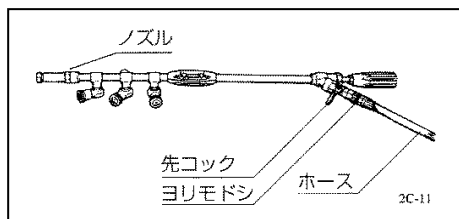
◎ 仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

5 運転前の準備

(1) ノズルの選定

ノズルは市販品をご使用ください。噴霧用ポンプの最大吸水量の 1 割以上を余水として確保できるノズルを使用してください。(但し、噴霧ホースのサイズ及び長さによってヘッドロスが生じるため、使用できるノズルは制約されます。詳しくは、**11** 噴霧点検(P. 16)を参照してください。

(2) ノズルの取付



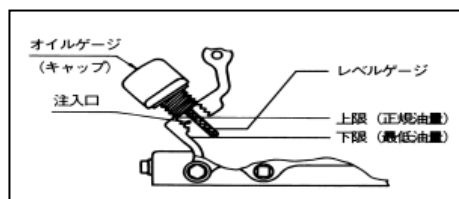
(図-16)

噴霧ホースの先端に、ヨリモドシ、先コックを付け、その先にノズルを取り付けます。その際、水漏れのないようパッキンを確認してから確実に締めてください。あまり強く締めるとパッキンがはみ出たり、破れたりするので確実に締めてください。

(3) エンジン

1. 使用前にエンジンのクランクケースにエンジンオイルを入れます。(SE 級以上 SAE10W-30)

(出荷時、エンジンオイルは入っておりません。)



(図-17)

エンジン	オイル量
三菱 GB131	0.5 L

2. エンジンの燃料タンクに自動車用レギュラーガソリンを入れます。

⚠ 危険

- 火災防止のため下記の項目を必ず守ってください。
- ・ 給油中はエンジンを停止し、火気を近づけないでください。
- ・ 燃料の入れすぎは危険です。燃料タンクストレーナレベルゲージ(赤色リング)以下にしてください。
- ・ こぼれた燃料は必ず拭取り、給油後燃料タンクのフタは、確実に締めてください。

燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。燃料補給時には燃料タンクストレーナを必ず使用し、給油量は燃料タンクストレーナレベルゲージ(赤色リング)以下で給油ください。

詳しくは、エンジンの取扱説明書をお読みください。

エンジン	燃料タンク容量
三菱 GB131	2.5 L



燃料タンクストレーナ
レベルゲージ(赤色リング)

(4) 噴霧用ポンプ

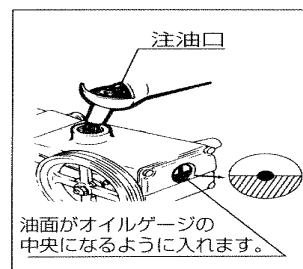
(図-18)

1. 使用前に噴霧用ポンプのクランクケースにエンジンオイルを入れます。

(SH 級以上 SAE10W-30) 容量 0.42 L

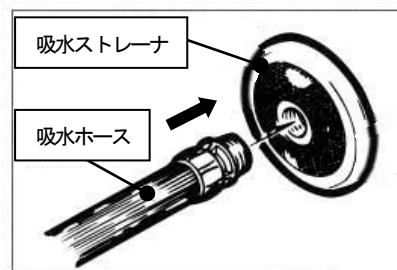
(出荷時、オイルは入っておりません。)

- 注油後、注油口フタは確実に取付けてください。



(図-19)

2. 噴霧用ポンプに吸水ホース、余水ホースを接続します。その際、パッキンが確実に入っていることを確認してください。吸水ホースの先端には吸水ストレーナを取り付け、薬剤タンクの底に密着させて固定します。余水ホースは、暴れてタンクから飛び出さないように付属のバンドで確実に固定してください。



(図-20)

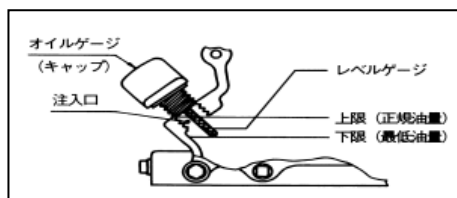
注意

- 薬剤タンクから吸水ホース・余水ホースが飛び出す恐れがある場合には、ホースの先端にオモリを取り付け、薬剤タンク内に沈めてください。
- 吸水ホースの接続が不完全な場合は、空気を吸い、吸水しない、異常振動が出る等して機械の寿命を縮めることがあります。また、吸水ホースが折れたり、つぶれたりした場合にも同じようになります。

6 始 業 点 検

事故を未然に防ぐには、機械の状態をいつも知っていることが大切です。始動前には必ず下記の点検を行ってください。

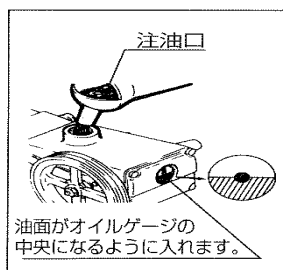
1. エンジン、クランクケース内のエンジンオイルの点検・補給。



(図-2 1)

2. 噴霧用ポンプクランクケース内のオイルの点検・補給。

●注油後、注油口フタは確実に取付けてください。



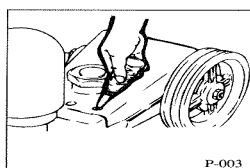
(図-2 2)

3. 噴霧用ポンプのシリンダ元部への注油。

●シリンダ元の注油口（3箇所）にオイル（SH級以上SAE10W-30）を運転時間100時間を目安に3～5滴注油してください。

⚠ 注意

●注油量が多すぎると、使用液にオイルが混入する恐れがあります。



(図-2 3)

4. エンジン燃料タンク内のガソリン量の点検・補給。
5. エンジンエアクリーナの点検・清掃。
6. 走行クラッチレバーの作動具合の点検。

走行クラッチレバーを握って機体を前後に動

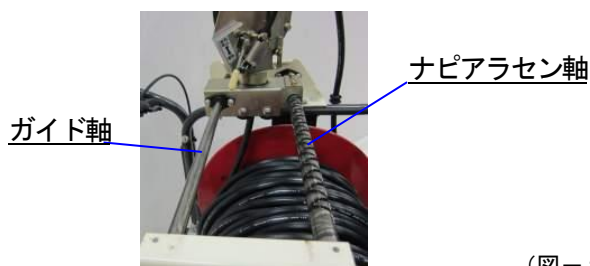
かした時にエンジンブレーキが掛かること。

また、レバーを放し機体を前後に動かした時に軽く動くことを確認します。

7. 走行ブレーキのきき具合の点検。

駐車ブレーキをかけ機体を前後に動かした時にタイヤにブレーキがかかり、タイヤがストップすることを確認します。

8. 整列巻ナピアラセン軸、ガイド軸の清掃、グリス塗布。



(図-2 4)

9. 噴霧用ポンプ吸水ホースのパッキンが正しく装着されているか。また、折れ、つぶれ、傷がないかの点検。

10. 噴霧用ポンプ吸水ストレーナの清掃。

11. ノズルの摩耗、詰まりの点検。

12. ボルト、ナット、ホース類の緩みの点検。緩んでいたら増締め。

13. ホースの損傷の有無。

14. 電気配線被膜の損傷、抜けの確認。

15. 水漏れ・油漏れの点検。

16. タイヤの傷、空気圧（300kPa）の点検。

⚠ 警告

● 傷害事故防止のために始業点検や整備を行う際には、必ずエンジンを停止して行ってください。

● エンジンを回して行う点検調整は、必ず最寄の取扱店に依頼してください。

7 給 水

薬剤タンクに必要な量の水を入れます。

⚠ 警告

飲料水源及び生物を飼育している湖沼からの直接吸水は、絶対に行わないでください。法律により罰せられる場合があります。

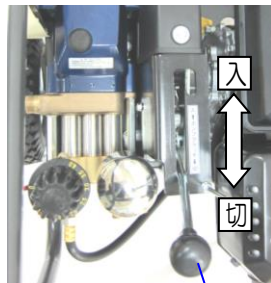
注意

吸水する度に吸水ストレーナを掃除してください。

8 エンジンの始動・停止のしかた

(1) エンジン始動のしかた

1. ポンプクラッチレバーが「切」の位置にあることを確認してください。



(図-25)

ポンプクラッチレバー

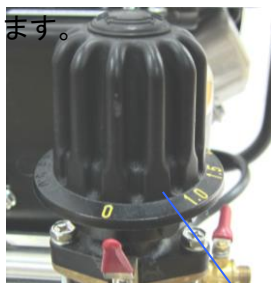
2. 噴霧用ポンプの元コック、及び噴霧ホース先端の先コックを閉じます。



(図-26)

元コック

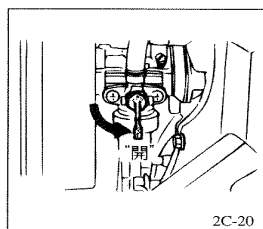
3. 噴霧用ポンプの調圧ダイヤルを「0」位置にします。



(図-27)

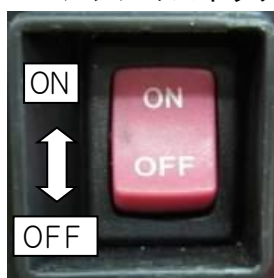
調圧ダイヤル

4. エンジンの燃料コックを開きます。



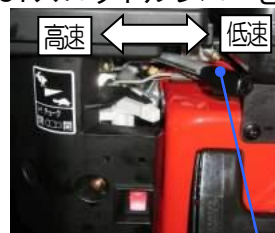
(図-28)

5. エンジンのスイッチを「ON」にします。



(図-29)

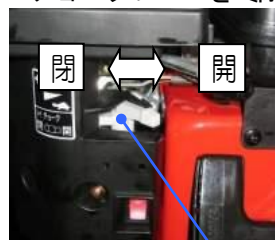
6. スロットルレバーを「中速」にします。



(図-30)

スロットルレバー

7. チョークレバーを「閉」にします。



(図-31)

チョークレバー

※ エンジンがよく暖まっている時は、チョークレバーの操作は不要です。

8. スタータグリップを握り圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢い良く引っ張ります。エンジンが始動したらスタータグリップをゆっくりと元の位置に戻します。2～3回スタータグリップを引いても始動しない場合は、燃料の吸いすぎとなり、始動困難となりますので、チョークレバーを「開」にして行ってください。



(図-32)

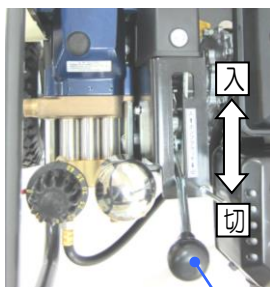
スタータグリップ

9. エンジンがかかったら、エンジンの調子を見ながらチョークレバーを徐々に開きます。最後は全開にしてください。

14

(2) エンジン停止のしかた

1. ポンプクラッチレバーは「切」の位置にしてください。



(図-3 3)

ポンプクラッチレバー

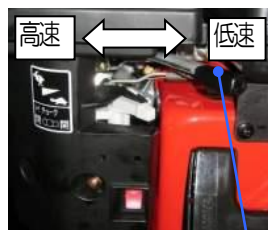
2. 調圧ダイヤルを「0」位置にします。



(図-3 4)

調圧ダイヤル

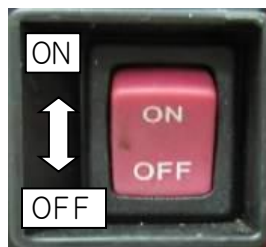
3. スロットルレバーを「低速」にします。高速運転後は2～3分冷却運転してください。



(図-3 5)

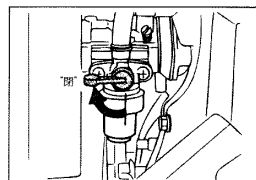
スロットルレバー

4. エンジンスイッチを「OFF」にします。



(図-3 6)

5. 燃料コックを閉じます。



(図-3 7)

9 走行運転のしかた

(1) 発進のしかた

⚠ 警告

- 走行ブレーキライニングとドラムの摺動面には油分を付着させないでください。ブレーキがきかなくなり、大変危険です。
- 吸水ホース、余水ホース、ノズル、かくはん機は取り外し、噴霧ホースは巻取って固定して走行してください。引っかかると危険です。
- 走行する前に、進行方向の障害物を取り除いてください。



(図-3 8)

走行ブレーキ

注意

- 走行する時はポンプクラッチレバーを「切」位置にしてください。「入」位置では噴霧用ポンプが空運転になり故障します。
- エンジンのスロットルレバーは「低速」の位置にします。

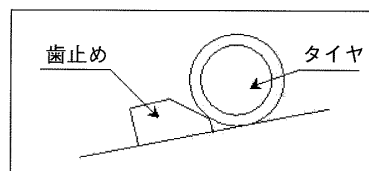
1. 周囲を見渡し、走行しても安全か確認します。
2. エンジン回転速度を「低速」にし、走行クラッチレバーをゆっくり握り、発進します。

(図-3 9 参照)

3. 停止する場合は、走行クラッチレバーを放します。

(2) 停車・駐車のしかた

1. 走行クラッチレバーを放し、ブレーキレバーをいっぱい握ってください。
2. 駐車ブレーキをかける時は、片手でブレーキレバーを握りながら、もう一方の手で駐車レバーを握ってロックしてください。
3. 駐車ブレーキを解除する時は、ブレーキレバーを握りながら駐車ブレーキを解除方向に戻してください。
4. 傾斜地に駐車する時は、駐車レバーをロックし、タイヤに歯止めをします。



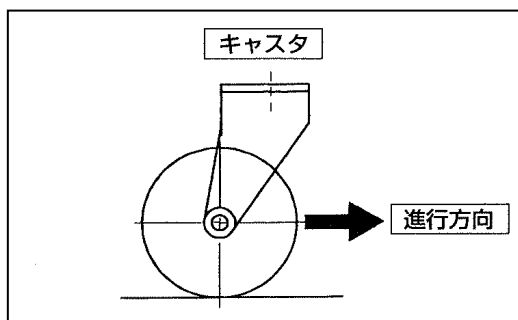
(図-3 9)

10 トラック荷台への搭載および固定方法

トラックへの積み降ろしのしかた

▲警告

- 本機をトラックへ積み降ろす際は平坦な場所で行ってください。転落事故の危険があります。
- ブリッジはスベリ止めと転落防止つばの付いた物を二本準備してください。スベリ止めと転落防止つばの無いブリッジはタイヤがスリップした時脱輪し、転落事故になる危険があります。
- 積み降ろしをする時は、必ず前進で行ってください。後進走行は操作を誤った時に本機が運転者の方に速い速度で走ってくる可能性があります。また、足を滑らせた時、機械の下敷きになる可能性があります。
- タイヤの幅とブリッジの幅を確実に合せ、ブリッジはトラックから外れないように確実に固定してください。
- 走行する前にキャストの向きを進行しようとしている向きに合わせてからブリッジに乗ってください。ブリッジ上でキャストの向きが変わると脱輪する危険があります。
- 積み降ろしをする際には、エンジン回転を低速でゆっくり行ってください。



(図-40)

注意

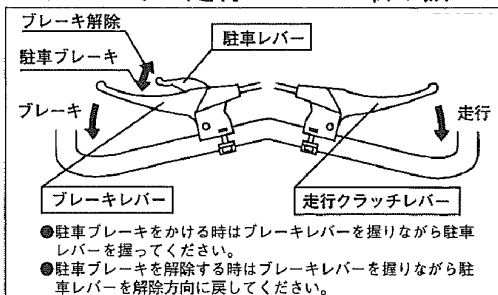
ブリッジの間にキャストをはさまないように注意して走行してください。はさまったまま無理に走行しますと、機体を損傷する恐れがあります。万一、はさまった場合は機体を軽く持ち上げ、ブリッジの隙間より脱出してください。

使用するブリッジの長さ

使用トラック	軽 四 輪	1 t
ブリッジの長さ	1.8m以上	2.4m以上

1. 積み込みが終わりましたら、〔駐車ブレーキ〕を確実にかけ、エンジンを停止して、ただちに荷台にロープで固定してください。

ブレーキ・走行レバーの取り扱い



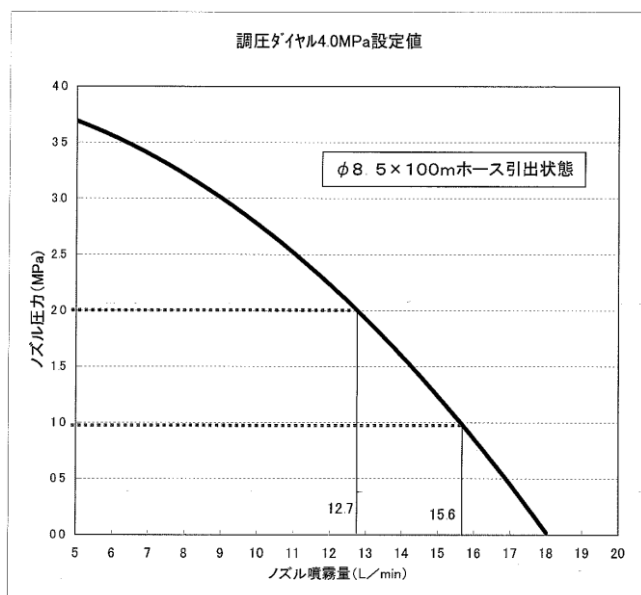
(図-41)

2. ロープは必要以上に強くかけないでください。また、バランスよく引張ってください。故障の原因になります。

11 噴霧点検

薬剤を調合する前に清水で運転し、異常が無いか確認してください。

グラフは、調圧ダイヤル4.0にした場合のノズル圧力と噴霧量の関連を、内径8.5、長さ100mホースを引き出した状態について示しています。



例えば、ノズル圧力2MPaとした場合、12.7 L/minが最大噴霧量ということになります。このグラフを参考にノズルを選定してください。

- (1) エンジンを始動し、噴霧用ポンプクラッチレバーを〔入〕にします。噴霧用ポンプが回りだし吸水を始め、余水ホースから水が出てきます。30秒くらい運転しても水が出てこなかったり、余水に大きな気泡が混じるようであれば運転を中止し、吸水ホースの接続部のゆるみ、パッキン及び吸水ストレーナの目詰まりを点検してください。

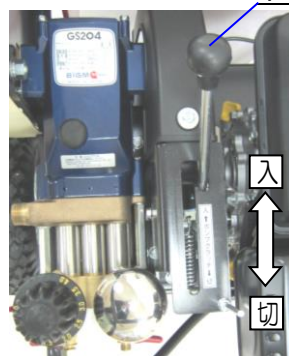
12 薬剤調合

注意

使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで正しく調合してください。

1. 調合は専用容器で、必要な量だけ調合します。
2. 水和剤はあらかじめ少量の水に良く溶かしてから薬剤タンクに入れます。
3. 薬剤タンクに必要な量の水を入れた後に薬剤を入れてください。

ポンプクラッチレバー〔入〕



(図-42)

- (2) エンジンのスロットルレバーを高速にします。
- (3) 調圧ダイヤルを希望する数値に合わせます。
- (4) 噴霧用ポンプの元コックを開けます。
- (5) ノズルを安全な方向に向けて先コックを開けます。
- (6) ホースの接続部から水漏れ等異常がないか点検します。
- (7) ノズルからボタ落ち等異常がないか点検します。
- (8) ノズル圧をチェックして調圧ダイヤルで希望する圧力に調整します。ノズル圧力は通常の散布では、1.5～2.0MPa(15～20kgf/cm²)が適当です。
- (9) 先コックを閉じます。
- (10) 噴霧用ポンプの元コックを閉じます。
- (11) 調圧ダイヤルを〔0〕にします。

注意

機械全体の振動に注意して、特に振動の大きい回転数(共振点)では使用しないでください。

4. 薬剤を外部に漏らさないようにして薬剤タンクに入れ、十分かくはんします。噴霧用ポンプを回しておくとも余水でかくはんすることもできます。別売りでフレキシブルかくはん機をご用意しています。使用すると効率良くかくはんできます。最寄の取扱店にご相談ください。
5. 展着剤を使用する時は、泡立ち防止のため最後に入れてください。

13 散 布 作 業

散布作業時の注意

1. 散布作業はできるだけ早朝、または夕暮れ時の風のない時間を選んで行います。
2. 薬液は残らないように必要な量だけ作ります。
3. 散布順路を決め、障害物はあらかじめ撤去しておきます。
4. 散布にあたっては風向きを考え、薬液を浴びないように注意します。
5. その他の注意事項は **1** 安全に作業するために (P. 2) と別冊の安全作業説明書をよく読んでください。

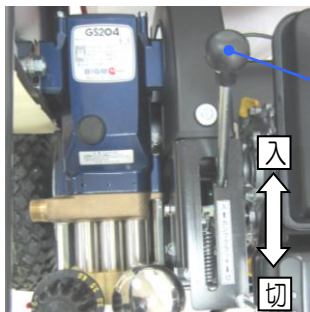
警告

噴霧ホースを腰ベルト等で身体に固定しないでください。万一、巻取機が停止しない事があると大変危険です。

注意

無用な人は散布作業の現場に近づけないでください。薬剤を浴びる危険があります。

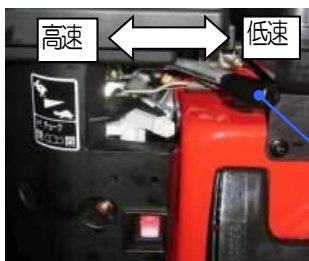
- (1) ポンプクラッチレバーを〔入〕の位置にします。



ポンプクラッチレバー

(図-4 3)

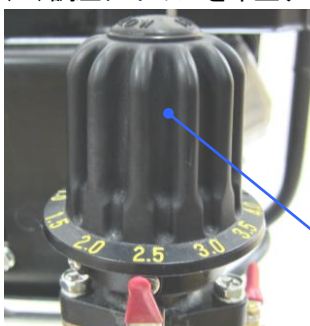
- (2) エンジンのスロットルレバーを〔高速〕にします。



スロットルレバー

(図-4 4)

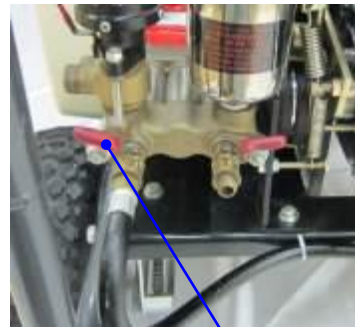
- (3) 調圧ダイヤルを希望する数値に合わせ加圧します。



調圧ダイヤル

(図-4 5)

- (4) 先コックが閉じていることを確認してから噴霧用ポンプの元コックを開けます。



(図-4 6)

元コック

- (5) ホースを必要な長さだけ引き出します。

注意

- ホース引き出しはゆっくり行い、急に引き出しを止めないでください。ホース巻ドラム内でホースがたるむと、巻き取りの時ホースが周りに当たり損傷します。
- ホースガイドが傾いてドラムブレーキが解除しホースを送出す構造上、本機より高い位置からホースを引き出すと、ドラムブレーキが十分解除できない場合があります。本機より低い位置で必要な長さを引き出してから作業してください。

- (6) 先コックを開けてノズルより薬液を噴霧します。ノズル圧は通常の散布では 1.5～2.0 MPa (ノズルが多少浮き上がる程度) 除草剤散布では 0.1～1.0 MPa が適当です。ノズルから噴霧している時に余水ホースからの水量が噴霧用ポンプ全吸水量の 1 割以上になるように、エンジンの回転を調整します。少なすぎると調圧弁の寿命を縮めます。

注意

- 噴霧点検した時の清水をノズルから出し切り、それから対象物に散布してください。
- 機械全体の振動に注意して、特に振動の大きい回転数(共振点)では使用しないでください。本機各部が破損する恐れがあります。

- (7) ホースを巻取る時は、巻取レバーを〔ON〕にします。巻取りレバーから手を放すと巻き取りは停止し、ホース巻きドラムにブレーキがかかります。

注意

- ホース巻取り中に異常を感じたら、すぐに巻取りをやめ、原因を取り除いてください。
- ホースを巻取る時は、ホースに圧力をかけて巻取ります。圧力を抜いて巻取ると、ホースがつぶれて薬液の流れが悪くなるばかりでなく、ホースの寿命も短くなります。
- ホースをつないで使用すると機械を壊す原因になります。
- ホース巻ドラム内にホースたるみがある場合は、ホースのたるみを取り除いてから、巻取りをしてください。
- ホースを巻取る時は、巻込まれ、転倒、引っかけ等の事故のないように安全を確認してから行ってください。
- ローラの近くではホースを持たないでください。ローラに挟まれる危険があります。
- ホースを引出すときは圧力をかけて行ってください。圧力をかけないでホースを引出すと、上に巻かれたホースが下のホースの隙間に入り込んで、引出しが困難になる場合があります。

(8) 散布作業中の注意事項

注意

- 作業中は異常音、液漏れ等に注意し、もし異常があったら運転を中止し、処置してください。
- 1時間以上連続運転すると噴霧用ポンプ空気室の空気がなくなり、ホースが激しく振れる事があります。その時には、エンジンを低速回転にし、調圧ダイヤルを〔0〕にして、吸水ストレーナを空中に出して、10秒程度空気を吸わせてください。その後、噴霧用ポンプの吸水を確認してから、作業を続けてください。
- 薬剤タンクの残量に注意し、吸水しなくなったら、すぐにポンプクラッチを切ってください。噴霧用ポンプの空運転を長時間続けると損傷する場合があります。
- ホース巻取はホースを軽く引き、ホースガイドを傾けてブレーキを解除しながら巻取します。ブレーキを解除しないで巻取を行うと機械の寿命を縮めます。

散布途中で薬液がなくなった場合は、調圧ダイヤルを〔0〕位置にし、エンジンを低速回転にしてホースを巻取ります。(この場合、ホースがドラム内でつぶれていますので、ホースの変形を取り除いてから、次の散布作業をしてください。)

14 散 布 終 了

- (1) 先コックを閉じます。
- (2) ホースを巻取ります。
- (3) 元コックを閉じます。

- (4) ポンプクラッチレバーを〔切〕位置にします。
- (5) 調圧ダイヤルを〔0〕位置にします。
- (6) エンジンを停止します。

15 散 布 作 業 終 了 後

- (1) 吸水ストレーナを洗浄します。
- (2) 薬剤タンクに清水を入れ、噴霧用ポンプを運転し、ノズルから清水を噴霧し、配管内部の洗浄運転をします。
- (3) 薬剤タンクが空になったら、ノズルを先コックより外し、エンジンを低速回転させ、噴霧用ポンプ、ホース内の水抜き運転をします。
- (4) ポンプクラッチレバーを〔切〕位置にします。
- (5) 調圧ダイヤルを〔0〕位置にします。
- (6) エンジンを停止します。
- (7) 燃料コックを閉じます。

- (8) 噴霧用ポンプの元コックは開けておきます。

注意

- 使用後の機体・散布装置は十分洗浄してください。
- 除草剤を使用した場合は、特に入念に配管内部の洗浄を行ってください。
- 本機の清掃をする時には、高圧洗浄機を使用しないでください。可動部、シール部に水が浸入し、破損や内部の錆などの原因になります。
- 電装品と噴霧ポンプには水をかけないでください。汚れたらウエスで拭き取ってください。

16 保守点検

機械を常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って定期的に保守点検を励行しましょう。

項目		運転時間	(毎日) 8時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと
エンジン	エンジンオイルの点検・補給		○			
	エンジンオイルの交換		●(初回25時間)		○	
	燃料もれ・油もれの点検		○			
	エアクリーナの点検・清掃		○			
	リコイルスターター周辺の清掃		○			
	マフラーカバー周辺の清掃		○			
	点火プラグ点検・清掃				○	
	燃料コックの点検・清掃			○		
	燃焼室のカーボン落とし					※○
	バルブ隙間の点検・調整					※○
	燃料パイプの交換		3年(但し、必要に応じ交換してください)			
	噴霧用ポンプオイルの点検・補給		○			
噴霧用ポンプ	噴霧用ポンプのオイルの交換		初回50時間		○	
	シリンダ元部への注油				○	
	ピストン部の点検				※○	
	調圧弁の点検				※○	
	吸水ホースのパッキン、折れ、つぶれ、傷の点検		○			
	ストレーナの清掃・点検		毎吸水時			
	整列巻ナピアラセン軸、ガイド軸の清掃・グリス塗布		○			
	ホースガイド支点部への注油		○			
	ホースガイドのローラー軸の注油		○			
	整列巻取機ローラ軸部の注油		○			
	ホース巻ドラム軸受へのグリス給油		○(20時間ごと)			
	各部ワイヤの点検		○			
	走行クラッチレバーの作動具合の点検		○			
	ブレーキのきき具合の点検		○			
	Vベルトの点検		※初回25時間		※○	
	チェーンの点検				○	
	ホースのキズや割れの点検		○			
	水漏れ・油漏れの点検		○			
	タイヤの傷や空気圧の点検(空気圧300kPa)		○			
	ノズルの詰まり・磨耗の点検		○			
	電気配線(被覆の損傷・端子の抜け)の点検		○			
	各部の清掃及び締め付け点検		○			

■ エンジンについてはエンジンの取扱説明書に従ってください。

※印は、最寄の取扱店に依頼してください。



注意

- 点検整備を行う時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンをかけた状態で、点検、整備を行う必要がある場合は、自分で行わず、必ず最寄の取扱店に依頼してください。
- 点検、整備などで外したカバーは、全て正しく取り付けてください。

整備点検のしかた

1. エンジンに関してはエンジンの取扱説明書を良く読んで整備してください。
2. 噴霧用ポンプのオイル交換
ドレンプラグを外してオイルを抜きます。
給油一覧表を見て新しいオイルを注油口より油面がオイルゲージの中心になるように入れます。



オイルゲージ
ドレンプラグ

(図-47)

20

3. ナピアラセン軸、ガイド軸の清掃・グリス塗布
泥等をきれいにふき取り、グリスを全面に塗布します。
4. 各部ワイヤの点検調整
各ワイヤ部のゆるみ、損傷等がないか点検します。ワイヤの調整は最寄の取扱店に依頼してください。

5. Vベルトの点検・調整
亀裂等がないか点検し、損傷があったら交換してください。Vベルトの交換と張り調整は最寄の取扱店に依頼してください。
6. ホースの点検
ホースに割れ、キズがあれば交換します。
7. 電気配線
配線被覆の損傷、端子の抜けを点検します。

17

給油一覧表

給油項目			容量 (L)	使用油脂	初期交換時間	定期交換及び注油 (時間ごと)
燃料	三菱	GB131	2.5	自動車用 レギュラーガソリン	—	—
エンジン オイル	三菱	GB131	0.5	ガソリンエンジン用 SAE10W-30 SE級以上	25	100
噴霧用ポンプ		GS204(CA)	0.42	ガソリンエンジン用 SAE10W-30	50	100
噴霧用ポンプシリンダ元部			3～5滴	SH級以上	—	
ホースガイド支点部			適量	万能グリス スプレーグリス(狭小部)	—	毎日(8時間ごと)
ホースガイドローラ軸部					—	
整列巻取機ローラ軸部					—	
整列巻取機ナピアラセン軸					—	
整列巻取機スライダガイド軸					—	
ホース巻ドラム軸受部				—	20	
整列巻駆動チェーン				—	100	

18

長期保管の方法

長期間使用しない場合には、次の要領で手入れを行います。

- (1) **16** 保守点検項目 (P. 19) を一通り確認します。
- (2) 不具合箇所を整備します。
ホースのガイドローラなど磨り減っている部品があれば交換してください。
- (3) **15** 散布作業終了後 (P. 18) の要領で清掃運転と水抜きを行います。
- (4) 凍結破損防止のため、水抜きを十分に行い、配管の一端をはずし、コックは開けておきます。
- (5) ホースガイド、整列巻ガイド軸、ナピアラセン軸の泥等を落とし、グリスを塗り錆止めをします
特に泥汚れは丹念に落としてください。泥はオイルやグリスと混ざると機械に固着してしまい、そのまま放置して使用を継続すると機械の寿命が短くなる場合があります。
- (6) エンジン燃料タンクのガソリンを抜いてください。
- (7) キャブレターフロート室のガソリンを抜いてください。
- (8) 燃料コックを閉じてください。
- (9) リコイルスタータグリップを引いて重く手応えのあるところ(圧縮位置)で止めてください。
- (10) 塗装のはがれた部分はサンドペーパー等で錆を落とし、塗料を塗ります。
- (11) 調圧ダイヤルを〔0〕にします。
- (12) エンジンが冷えてからカバーをかけて、湿気の少ない平坦な場所を選んで格納してください。

19 故 障 診 断

故障かな？と思った時は、次の表を参考に点検し処置してください。処置をしても直らないとき、あるいは※のある処置の場合は、最寄の取扱店に連絡して調整・修理を依頼してください。

(1) 巻 取 部

状 況	点 検 箇 所	処 置
ホース引出しが重い ホース引出しができない	① ホースが乱雑に巻かれていませんか。また、整列巻取機とホース巻ドラムのホース位置がずれていませんか。	きれいに巻かれている所までホースを引き出し、巻き直してください。
	② ホース巻ドラムの軸受にはグリスが十分行き渡っていますか。	グリスカップのキャップを回して、グリスアップしてください。
	③ ホースガイドのローラ軸には、オイルは注油されていますか。	オイルを注油してください。
	④ ホース巻ドラムのブレーキワイヤは張られていますか。	※ ワイヤの調整をしてください。
ホース巻取力が弱い ホース巻取ができない	① エンジンからホース巻ドラムにかかっているベルトがスリップしていませんか。	※ ベルトの調整をしてください。
	② ベルトが伸びていませんか。	※ 新品と交換してください。
ドラムに巻かれたホースがたるむ	① ホースの引き出しは、ゆっくり行っていますか。	ゆっくり引き出してください。
	② ブレーキのゴム板はすり減っていませんか。	※ 新品と交換してください。

(2) 動力伝達装置部

状 況	点 検 箇 所	処 置
加圧されない	① 噴霧用ポンプクラッチレバーは〔入〕の位置になっていますか。	〔入〕にしてください。
	② ベルトは伸びていませんか。	点検し、※調整、または※交換してください。
	その他は、噴霧用ポンプの故障診断を参照してください。	
走行できない	① ベルトの伸び、損傷はありませんか。 ② クラッチアームは正常に作動していますか。	点検し、※調整、または※交換してください。
ブレーキがきかない	① ブレーキ部に泥等がついていませんか。	点検し、※清掃、※調整してください。
	② ワイヤは張られていますか。	点検し、※調整してください。

※印は、最寄の取扱店に調整、修理を依頼してください。

(3) 噴霧用ポンプ部

状 態		原 因	対 策
(1) 吸い込まない 吸い込みにくい	伝 動 部	ベルトのスリップ	※調整・交換
	吸水口まで	吸水ストレーナの詰まり	掃除
		吸水ストレーナの損傷・屈折・つぶれ	補修・交換
		吸水接続パッキンの異常	補修・交換
		接続不良	正しく接続
		吸水ホースの長さが長い	付属品に交換
		吸水の揚程が高すぎる	揚程を低くする
	吸水・加圧部 (シリンダ部)	吸水弁・吐出弁にゴミ等のつまり・固着	※掃除
		吸水弁・吐出弁の傷付・摩耗	※修正・交換
		吐出弁バネの損傷	※交換
		ピストンパッキンの破損	※交換
		Oリングの破損	※交換
		シールパッキンの破損	※交換
	調 圧 部	調圧ダイヤルが加圧状態になっている	減圧する
		調圧部の固着	※洗浄
(2) 圧力が上がらない	吸水・加圧部	吸水量が不足している	(1)を診断
	調 圧 部	調圧弁玉・弁座の損傷	※交換
		調圧弁・弁棒の不良	※調整・交換
		調圧弁バネ筒の不良	※補修・交換
		調圧弁バネの損傷・劣化	※交換
(3) 吐出バルブを開くと 圧力が下がる	ノ ズ ル	ノズルの摩耗	交換
		ノズルの噴霧量が多すぎる	適正ノズルに交換
	噴霧用ポンプ	吸水量が少ない	(1)を診断
	ホ ー ス	噴霧ホースが長い	※購入時の噴霧ホースに交換する
		噴霧ホースが細い	
(4) 騒 音		ホースの接続不良	補修・交換
		プーリーのゆるみ	増締・交換
		コンロット等のボルトのゆるみ	※増締
		ベアリングの破損	※交換
		調圧弁の損傷	※調整・交換
(5) 液漏れ、油漏れ		空気の吸込み	点検
		Oリングの損傷	※交換
		シールパッキンの損傷	※交換
		オイルシールの損傷	※交換
		締付、整備不良	※分解・調整

※印は、最寄の取扱店に調整・修理を依頼してください。

消耗品一覧

下記消耗品一覧は、主に機械的に摺動する部位に組み立てられている部品について挙げています。

その他のＯリングやパッキン等の部品に付きましては、**16**保守点検（P 19）、**19**故障診断（P. 21）を参照していただき、点検・清掃、交換していただくようお願いいたします。

使用部位	品 番	品 名	個数	規格
走行ブレーキ	5 3 6 6 7 3	内拡ブレーキ（L）	1	
	5 3 6 6 7 5	内拡ブレーキ（R）	1	
ホース巻取機ブレーキ	0 5 8 9 5 1	ゴム板	1	
走行駆動	2 9 2 8 6 5	Vベルト	1	SA 2 2 レッド S 2
噴霧用ポンプ駆動	2 9 2 8 6 6	Vベルト	2	SA 2 8 レッド S 2
カウンタプーリ駆動	1 9 9 7 5 9	Vベルト	1	LA 2 1 オレンジ
巻取クラッチ駆動	1 9 9 7 6 0	Vベルト	1	LA 3 9 オレンジ
整列巻スライダ	0 5 9 0 1 3	ローラ	2	
整列巻チェーンハリ	5 3 7 1 9 0	スペーサ	1	8. 2 X 1 0 X 3 5
噴霧用ポンプ	1 0 0 0 1 5	シールパッキン	3	
	1 1 6 1 2 1	ピストンパッキンマトメ	3	
	0 1 6 9 7 5	調圧弁 弁棒	1	
	0 1 2 2 5 6	調圧弁 弁サック	1	

※ エンジンの消耗品について、詳しいことはエンジンの取扱説明書を参照ください。

■保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は、大切に保管してください。

製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、最寄の取扱店に連絡し、すぐに適切な整備をしてください。

○連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

機種コード	3 5 8 5 1 6
機 種 名	G S L F 2 0 4 - M
規 格	
製 造 番 号	0 0 0 0 0 0 0 0

製造番号ラベル

(貼付位置はP 5 参照)

○本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。

年に一度は、最寄の取扱店に、点検整備をお願いしてください。

このときの整備は有料となります。

■補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後9年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

製品に関するお問合せ等は、まず、ご購入の販売店にご相談ください。または、
下記の全国共通の無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 **0120-898-114**

受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ
下記の事項をご準備ください。

- ① 製品型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店

 **株式会社 丸山製作所**
本社/東京都千代田区内神田3-4-15 TEL (03) 3252-2281 (営・代表) 〒101-0047

この取扱説明書の部品番号は、**834042**

P/N. 834042-04 2019. 6